



フランス館

大阪・関西万博

2025年4月13日～10月13日



目次

エマニュエル・マクロン、共和国大統領からご挨拶	3
オリヴィエ・ベシュト、ヨーロッパ・外務大臣付 貿易・誘致・在外フランス人担当大臣の声明	4
ジャック・メール、フランス博覧会公社社長および2025年大阪・関西万博フランス館総監督の声明	5
● 2025年大阪・関西万博フランス館、影響力、発展、誘致のてこ入れとして	6
1- 万国博覧会、持続可能な開発を推進する世界的なイベント	6
2- フランス、万国博覧会にかけるその情熱	7
3- 日本、フランスの重要なパートナー	7
4- 1970年大阪から2025年大阪へ	8
● 大阪万博 2025: いのち輝く未来社会のデザイン	9
1- 2025年万博概観9	
2- 万国博覧会で明らかにされる産業・技術・科学の主要なイノベーション	10
● フランス館、フランスのサヴォワフェールを大胆に活かす舞台	12
1- 赤い糸である「愛の讃歌」	12
2- 「感動を呼ぶ」というコンセプトを形にした建築	13
3- 高潔で持続するエスプリにコンセプトを置いた建築	14
● 来場者の体験	16
1- 「愛に満ちた散歩道」というコンセプトが宿る常設展示	17
2- デザインのすべて	18
3- フランスのストロングポイントの価値を高めるプログラム	19
● パビリオンの「いのち」の主要なステップ	20
● フランス館のパートナー	21
添付文書	23
● ジャック・メールの経歴: 2025年大阪万博フランス館総監督およびCOFREX社社長	24
● COFREX: 国際社会におけるフランスのビジョン	25
● フランスというブランド	25
● パビリオンの設計と建造 (フランス)	26
1- クリエイティブバック	26
2- フランス館の建設と舞台美術の提供者	29

共和国大統領からご挨拶



「フランスといえば思い起こされる印象、それは「愛」のイメージです。

芸術の中では喝采を沸き起こし、感動の涙を流させ、表現され、モニュメントでは絶えず挑戦して止まない強い願いとして具現化され、何世紀にもわたって国を愛する信条の中に受け継がれ、我々のサヴォワフェールと伝統の中で風景や自然に向けられている印象として、「愛」はそこが我が家であるフランスの中に存在します。

この愛の情熱は、ゆえに、しばしば精神の冒険の中でも昇華されてきました。それは私たち皆が一国家間の平和、この地球の未来、あらゆる社会における自由の保護—という同じ課題に立ち向かわなければならないからです。この冒険はこの先数十年は刻み続けられなければなりません。

大阪万博 2025 のフランス館に来訪される方々に体験いただけるのは、このフランスの世界観であり、「愛」だけでなく、「大胆さ」と「対話」の賛歌なのです。

それは我が国の企業、アーティスト、科学者の提案を通じて様々な形で表現され、それぞれが独自のやり方で、フランスが共有する理性、美、進歩、自由を世界に向けて発信することを目指しています。この大きな望みを抱きつつ、愛、のように、普遍的に通じる言葉を用いて、明日の世界に希望を届けるものとして。」

エマニュエル・マクロン

フランス共和国大統領

オリヴィエ・ベシュトの声明



万国博覧会は常に、私たちが生きている時代を象徴する唯一無二のイベントです。これは国・地域、企業、男女の架け橋となる機会です。半年間、世界各国が一堂に会し、それぞれの文化の豊かさを紹介するだけでなく、新しい視点、革新的なアイデア、そして現代の大きな課題に対する具体的な解決策を提案するものです。

2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで開催される大阪万博は、敢然と人類の進歩のための探求に焦点を当てています。そしてこの重要な考察において、フランスは最前線に立っています。

フランス館では「Make it iconic. Choose France」というスローガンのもと、フランスのイメージカラーとともに、その幅広いノウハウを全大陸から訪れた来場者に披露します。エネルギーとデジタルの移行を加速させ、文化遺産の価値を高め、ますます包括的な社会の結束を確保するための、我々の一貫した政治的、経済的、文化的、社会的行動を前面に押し出すのです。

つまり我が国の特徴である大胆な創意工夫の精神を発信し、すべての来場者にフランスへの憧憬を呼び起こすということです。

フランス企業にとって、フランス館は、食品加工から美術工芸品、最先端技術に至るまで、あらゆる分野における専門知識と卓越性を紹介するショーウィンドーになります。

この万博は、参加するすべての人々にとって、日本とすべての出展国の文化に触れるまたとない機会になることでしょう。

私は、フランスの創造性とビジネスに貢献するこの試みのためにコフレックスとともに尽力してくださったすべての方々、つまり地域、チーム・フランス・エクスポートの運営者、そしてすべてのパートナーの皆様にお礼を申し上げたいと存じます。

オリヴィエ・ベシュト

ヨーロッパ・外務大臣付貿易・誘致・在外フランス人担当大臣

2025年大阪万博 フランス館が奏でる 「愛の讃歌」



万国博覧会というのは、分かち合いと情熱の魔法のような瞬間です。それが日本が理想とする未来社会を世界と共に創り上げていくためにお招きいただいた大阪で開催されるならなおさらです。自らを模索するこの世界に、フランスは独自の価値感と感性で楽観的かつ意欲的に応えています。フランスは2,800万人の来場者に、他ではできない体験をご提供します。没入型のフランス館の建物は、「愛」の讃歌の具現化した芸術作品です。

このパビリオンは展示と感動の場です。また、これはイベントのサービスプラットフォームとしても、サヴォワフェールと取り組みにめざましく動いているフランスに、企業、専門家グループ、地方自治体、研究機関、文化機関などとの交流の場を提供するまたとない機会でもあります。

万国博覧会のメインエントランスに面したうえ、日本館に近いという博覧会の要ともいえる場所に位置し、フランス館はフランスのビジョンを国際的にアピールし、文化、科学、社会そして産業の諸問題について、フランスの取り組みをより確固たるものにするための、ここにしかない特別なショーウィンドーとなるでしょう。

同時に大阪において、フランス館は日本人という、高い期待値をもち、しばしば西欧世界とはかけ離れた基準をもつ人びとに、強く語りかけていく決意をもっています。

この「愛の讃歌」は、日本とフランスを結ぶ赤い糸です。ですから人生の意味についての強いメッセージを添えた新しい未来のビジョンを、さらに生きる意味のもっとも高い次元にある「愛」、すなわち「自分への愛」、「他者への愛」、「地球への愛」について、さらにはフランスと日本の間にある愛の物語についても提案していきます。

2025年大阪に向けたフランスのメッセージを共に創り上げましょう！

ジャック・メール (Jacques Maire)

COFREX社 社長

大阪万博 2025 フランス館総監督

• 2025年大阪・関西万博フランス館、影響力、発展、誘致のでこ入れとして

1. - 万国博覧会、持続可能な開発を推進する世界的なイベント

1851年に、産業革命のただ中で、「万国」といわれる博覧会の構想が生まれました。それは「公衆の教育を主たる目的とする催しであって、文明の必要とするものに応ずるために人類が利用することのできる手段又は人類の活動の一若しくは二以上の部門において達成された進歩若しくはそれらの部門における将来の展望を示すもの」でした。

それ以来、万国博覧会は、世界的な大きな試練に立ち向かうために、**進歩的解決案を浮かび上がらせることに貢献しています。**

この桁外れなイベントは1928年に創設された万国博覧会国際事務局（BIE）によって規定された規則に従うことになり、また登録博覧会（6ヶ月）と、より特化された認定博覧会（園芸博覧会、国際博覧会、美術のトリエンナーレ、3ヶ月）は区別されることになりました。

地球規模のイベント、すなわち一般市民向けの文化・科学イベント、政治的フォーラム、ビジネス向けのイベントが交差する国際的な出会いの場として、登録博覧会は多くの分野において、国際的でクリエイティブな力を連邦化しました。例えば、建築、学芸、文化、舞台芸術、あるいはまた、産業、技術、科学、都市計画、教育、経済、政治、外交など。

何千万人ももの来場者が利用したことで、この大規模イベントは評価され、また、一般大衆に、さらにビジネス関係者にも、参加国、公共・民間団体、多国籍機関、教育施設、さらには非政府組織（NGO）のもつ最新のイノベーションを間近に見ることを可能にしました。このように、登録博覧会の目的は、それぞれの国家に特別な環境を提供し、サヴォワフェールの本物のショーウィンドーとなるだけにとどまらず、皆の利益になる未来のビジョンを分かち合うというものでした。

今日でも、万国博覧会は、祝祭と協力関係の精神の中で、すぐれた国家のショーウィンドーの役割を務めています。オリンピックと同じ理由で、万博は「共生」に役立つ国際的な一大行事のなかでも、間違いなく一番知られている存在です。

¹ 1928年の国際博覧会条約、第1条1項、BIE（万国博覧会国際事務局）。



2. フランス、万国博覧会にかける情熱

この種のものとしては初めて、パリで1798年9月19日に開幕した最初の「工業製品の国内博覧会」は、産業と農業が新たな価値を見出した瞬間でした。「万国」といわれる最初の博覧会は1851年にロンドンで開催されることとなりますが、1855年には続けてパリで万国博覧会が開催されます。

フランスの卓越した技巧の象徴である金属製建造物として、エッフェル塔はフランス建国百年を祝う年である1889年の万国博覧会に向けて建築されました。エッフェル塔はエントランスの地点にありました。歴史への敬意を表して、日本はフランス館を2025年の万国博覧会の入り口に配置しました。

万国博覧会創設から、フランスはすべての万博に参加してきましたが、これは万博が国際舞台で国の持ち味を強く示す時間であり、すべてのフランス人が自国のパビリオンとそのメッセージを囲んで結束する、またとない機会でもあるからです。



3. 日本、フランスの重要なパートナー

アメリカ合衆国と中国に続く世界で第3位の経済力があり、世界の中でもっとも裕福な国に含まれ、日本はまた世界で最も大きな輸入国のひとつであり、東アジア市場に企業が参入する表玄関です。日本市場は、Eコマースにおいても世界第3位を占めています。

数々の先進的な専門的知見とテクノロジー、卓越した文化で注目される日本は、多くの国際的な企業を引き付けています。この国は、未来への展望があり、現代的で、伝統的な部分は深く保ったままに、外部から来るイノベーションを受け入れる準備はできています。近年において、フランスと日本の貿易関係は拡大しましたが、両国がもつ潜在的な能力の極みに達してはいません。

日本の人びとは世界の中でも高い購買力を享受しており、また失業率はとても低いです（2022年で2.6%）。高い要求レベルと新しいものへの強い愛着をもつ点で、日本の人びとは際立っています。日本はしばしば、新しい製品やサービスを世界展開するための格好のテスト市場となります。とりわけフランスのサヴォワフェールは、日本において、化粧品、高級品、美食、モードの分野における高級ブランドのイメージで得をしています。

2050年までにカーボンニュートラルを達成するという日本の宣言、情報技術やデジタルアプリケーションへの優先順位、「革新的、インテリジェントで持続可能」な社会を構築したいという意向は、工業、運輸・環境、健康、デジタルにおける革新的なフランス企業にとって願ってもない好機だといえます。この力関係が、フランス企業の日本市場への展開を促進するように働きかけるのです。

大阪では、フランス館は日本人に、つまり高い期待を持つ、西洋世界とはしばしばかけ離れた情報をもっている観客にもアピールをしたいと考えています。パビリオンは、再工業化の「フランス2030年プラン」を明確に示すことになり、2050年にカーボンニュートラルを目指すという「新しい資本主義」プロジェクトで自国の経済的試練への答えを模索している日本との、パートナーシップを促進することができます。

一般来場者へのインパクトを補完するものとして、貿易協定の促進もまた、フランス館の使命と成功に不可欠な、重要な要素になります。

4. 1970年大阪から2025年大阪へ

日本は、博覧会国際事務局（BIE）の創設メンバー国のひとつです。日本がフランスでの万博に出展者として初めて参加したのは、1867年のパリ万博のときでした。以来、日本は一貫して万国博覧会や国際博覧会に対する情熱を育みつづけ、開催国として何度も博覧会を企画しました。

1970年、アジアで初めての万国博覧会を大阪で開催しました。このイベントは日本にとってとりわけ重要なものであり、これによって日本が工業先進国で世界に向かって開かれていることをはっきり示すことになりました。「人類の進歩と調和」というテーマで、アメリカ合衆国とソビエト連邦を含む77カ国が参加し、博覧会は技術的進歩を、それについて弁明するというのではなく、教育的目的かつ平和的な意志をもって出展しました。6,400万人の来場者という記録を手にして、この博覧会は大規模統一イベントの歴史の中で2番目に人気を博した博覧会となりました。

1985年に、日本は111カ国を「国際科学技術博覧会」開催で「つくば」に迎えました。テーマは「人間・居住・環境と科学技術」と定められました。博覧会の6ヶ月の間に、2,000万人以上の来場者がありました。

2005年に、日本は新たな万国博覧会を「愛知」で、名古屋市の東部丘陵地帯にて、「自然の叡智」というテーマで開催しました。121カ国が参加しました。

2025年大阪・関西万博は、2025年4月13日から10月13日まで開催されますが、日本は、最高の状態での進行を取り行うために、再び国際委員会を招集する予定です。



●大阪万博 2025: いのち輝く 未来社会のデザイン

2025年大阪万博の目標は、国中の公共・民間の関係者による専門的知見とイノベーションの国際的な実験場になることで、それは「国連の持続可能な開発目標」を中心として明日の社会を構築し、より多くの人びとと分かち合うためです。

万博は2025年4月13日から10月13日まで大阪(関西)で、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで開催されます。テーマは以下のような3つのサブテーマに分かれます。「いのちを救う」：健康を守り、自然災害に対して闘う。「いのちに力を与える」：AI（人工知能）やロボットを活用した教育・ビジネスの可能性を追求する。「いのちをつなぐ」：異文化理解を進め、情報やコミュニケーションのテクノロジーで新たな技術革新を展開する

日本人建築家の藤本壮介氏の考案で、イベントの敷地は参加する各国および国際機関のパビリオン全体が取りまとめられ、主要な循環ラインに沿って、広場や遊歩道が設けられ、来場者にさまざまな雰囲気や種類の体験を提供する予定です。

●「いのちに力を与える」(Empowering Lives)ゾーンに設置された、フランス館は「わたしたちのいのち」を人間の、社会の、生き物のいのちという広い意味で理解し、また人間の地位をその環境の中で問いかけ、その 目的は フランスの専門的知見をそのあらゆる多様性の中でまたその大胆さの中で輝かせることです。

●戦略的に据えられた、2025年大阪万博のメインエントランスに面して、フランス館が享受することになる抜群の視認性、それは2025年大阪万博に通じる地下鉄駅の出口から、「いのちに力を与える」ゾーンの来場者の流れの中心におよびます。日本館に向かい合っているので、フランス館の立地条件は魅力を増すことになり、来訪者が増加するのは確実です。

1. 2025年万博概観

- 夢洲、大阪湾に位置する人工の島。
- 155ヘクタール
- 藤本壮介、会場デザインプロデューサー
- 木製の「大屋根（リング）」は直径615m、円周2kmで、万国博覧会の会場を取り囲むもので、そのデザインは「多様でありながら、ひとつ」の象徴になっています。
- 3つの主要なゾーン：「いのちを救う」、「いのちに力を与える」、「いのちをつなぐ」、
- 3つのマクロゾーン：グリーンワールド、パビリオンワールド、ウォーターワールド。
- 2,800万人の来場者が見込まれる。
- 80%の来場者 -> 日本、中国、韓国。
- 160カ国の参加
- 9の国際機関が関与。

2. 万国博覧会で明らかにされる産業・技術・科学の主要なイノベーション

いつの日も、万国博覧会は外交・テクノロジー・貿易に関する交流に焦点を当てています。万博は来場者には最新の発明とイノベーション、新しい素材と製造技術を実際に見ることを、参加国には各国の卓越したものを全世界に向けて見せることを可能にします。

万博の際に初めて披露された主要ないくつかのイノベーションにフォーカス

2020年・ドバイ

「空飛ぶクジラ」からイメージを得た、操縦可能なLeabotは80トンまでの貨物をアクセス不能な地域に、陸路または海路で、さらには環境へのインパクトを著しく削減して運送することが可能。

2015年・ミラノ

新世代のインターネット・プロトコル・ネットワークと、超高速インターネット・アクセスのキャピラリーWi-Fiインフラを紹介。

2005年・愛知

トヨタ、ソニー、ホンダが造り上げたヒューマノイドロボットは、清掃、警備、誘導などを確実に行えるので…展示の通路を歩き回る一方で、「バイオラング」、世界で一番大きな植物の壁が展開される。

1970年・大阪

最初の携帯電話が、このテクノロジーがなにを提供できるのかを見せることに成功。同時に、高性能電子顕微鏡、最初のImaxの映画館、電子揚力電車が展示される。

1962年・シアトル

来場者はIBMのShoeboxに魅了された、音声操作に答えるコンピューターである。

1939年・ニューヨーク

来場者は展示会場からライブで最初のテレビ放送を目撃する。

1904年・セントルイス

今日では世界中のすべての病院や空港に存在するX線装置が初めて紹介される。

1905年・リエージュ

レオン・ゴーモンが考案したクロノフォンは、映像と音を同期させることができる最初の装置のひとつ。

1900年・パリ

パリの地下鉄の最初の路線と最初のエスカレーターが開業されて、それをフィルムに収めたのがリュミエール兄弟である。

当時最大の望遠鏡は月を見るように設定されて、「パレ・ド・ロプティック（光学の宮殿）」に設置される。この望遠鏡の長さは60メートル、重さは20トン。

1893年・シカゴ

最初の大観覧車がお目見えしました。高さ80メートル、36の客車が設置され、それぞれに60人の乗客を収容できる！

1889年・パリ

1889年の博覧会では、フランスの首都は「エッフェル塔」の魅力で満たされる。

エルミニエール・カドールが「ビャンエートル（快適さ）」というネーミングで特許を登録している最初のブラジャーを発表。女性の装い全般におよぶ革命である！

1878年・パリ

トーマス・エジソンの蓄音機は大きなアトラクションのひとつで、あらゆる新聞や雑誌に競って掲載される。

1876年・フィラデルフィア

アレクサンダー・グラハム・ベルが世界に先駆けて最初の電話を発表。同時に、ポップコーンとハインツのケチャップが最初のお目見え。

1867年・パリ

ユーロトンネルの先駆的存在、イギリスとフランスの間に海底トンネルを建設するプロジェクトが万博の際に発表される。技術者エメ・トメ・デュ・ガモンに考案されたが、実現することはない。

1855年・パリ

ナトリウム、塩化アルミニウム、アルミニウム塊のサンプルがパノラマの円形パネルの中に陳列される。500万人以上の来場者が、この新しい金属の鑑賞を実現する。

1851年に発明されたフーコーの振り子は、地球の自転現象を証明し、名誉ある評価を受ける。



2. 「感動を呼ぶ」というコンセプトを形にした建築

パビリオンは300万人以上の来場者を迎え入れるように、また **ここでしかない「ビジター体験」**、ポジティブな感情で満ちた多重感覚の旅路を提供するように考えられており、これが視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚に訴えます。

Coldefy & Associés Architectes Urbanistes エージェンシーと**CRA-Carlo Ratti Associati**事務所によって創造されたフランス館は、以下のように建物の全体で「愛の讃歌」の赤い糸を表現します。常設展示スペースと臨時展示スペース、一般向けのスペース（ブティック、ベーカリー、ビストロなど）のほか、専門家やパビリオンのパートナー専用のスペースです。

フランスのアイデンティティの強い表現

パビリオンの**威厳あるファサード**は、入館するとすぐに来場者に姿を見せます。純化されて現代的なスタイルで、ファサードは謎めいた部分を保ったまま**観衆に明かされる劇場の舞台**を思わせます。**ファサードの両側面は、劇場のように、完全にベールで覆われていて、待ち合わせ場所としての通路を経てさまざまなスペースにアクセスができます。**

常設展示に含まれた部分として、屋根は広大な庭園ですが、常設展示の見学の途中、あるいは博覧会会場を囲んでいる巨大なリングから見ることもできます。

全体としては官能的、優雅でフランス流にシックで、巨大なスクリーンという万国博覧会に存在する伝統的な他のアプローチとは一線を画するものです。



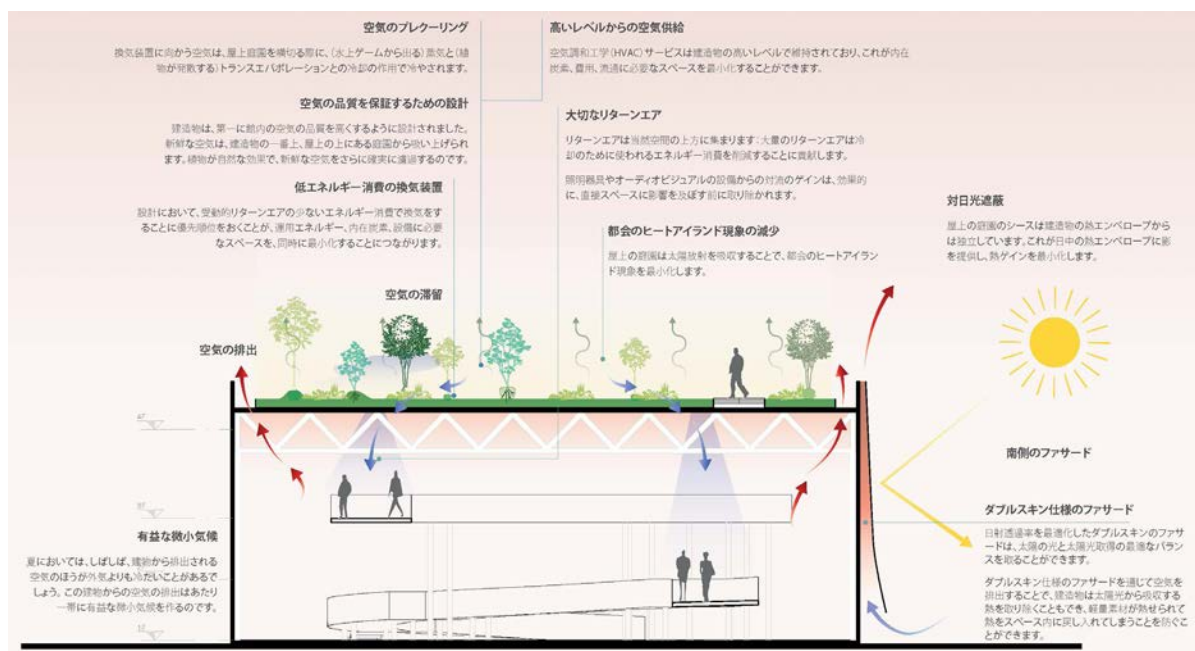


3. 高潔で持続するエスプリにコンセプトを置いた建築

パビリオンは、リサイクルを最適化するように考えて、一時的な建築物として考案されています。金属製の構造はパーツとユニットにして再び組み立てることができるもので、他の建造物に使うことができます。パビリオンの建築面積の21%は、レンタルされて再利用可能な組み立て式モジュールで構成されています。

外側のカバーは、美的な観点とは別に、フランス館の防御物としての役割を果たしています。ダブルスキン仕様で建築されたカバーは、伝わってくる熱の量を削減しながら、建物の温度調整能力を改善しています。自然な換気を利用して、カバーは暖房と冷房のためのエネルギー消費を削減します。

植物が植えられて建物全体の覆いである庭園は、屋根を絶縁して微気候を作るように考えられています。庭園は雨水を受けて集めて再利用することができます。このパビリオンの中心的な要素は2025年万博にインパクトを与えるもので、都市型ヒートアイランドの削減にも役立つものです。



フランス館（数字で見る）

パビリオンの管理団体は、スペース全体を合計すると、一日に25,000人以上の来場者が見込まれるという、非常に多くの客数を迎え入れることになると考えています。

- 長さ87m、最も狭いところで幅22.5m、後方の壁幅31.7m、
- 高さ最高部で17m、最低部で10.5m
- 正面ファサード（東）：高さ17mで幅22.5m（面積382.5m²）
- 南ファサード：高さ17～10.5m、長さ87m
- 床面積5,400m²（アクセスできる屋上を含む）
- 庭園面積1,000m²
- 常設展示：1000m²
- 企画展示：200m²
- ビジネス関係者イベントスペース：140m²
- ビストロ：120m²
- ブティック：30m²
- ブーランジェリー・パティスリー：165m²



● 来場者の体験

来場者の体験は、訪問が記念すべき瞬間となるので、**感動すること**を約束します来場者の体験から、フランス国およびフランス企業が契約した代理人を通じて「ビジョン」と「意味」を提供します。来場者の体験は、フランスの関係者が解決のインタラクティブな説明を提案することによって、イノベーションを提供します。最後には、フランスの経済・科学・文化のエコシステムおよび地域の多様性に由来する経験とサヴォワフェールを分かち合うことで、訪問は**多次元的なもの**に変化していきます。

来場者の経路は、パビリオンの底の日よけの下で始まる**順番待ちの列で開始され**、ベーカリーの前を通り、少しずつ各自がなだらかな勾配に沿って高みに上ることができるものです。

フランスらしいシックな広いホールの中を進んでいくと、道の続きに記念碑的なオービュッソンのタペストリーを見出すことになります。「自分にある悪魔の傷を癒すアシタカ」、宮崎駿の映画「もののけ姫」の映像からインスパイアされたものです。



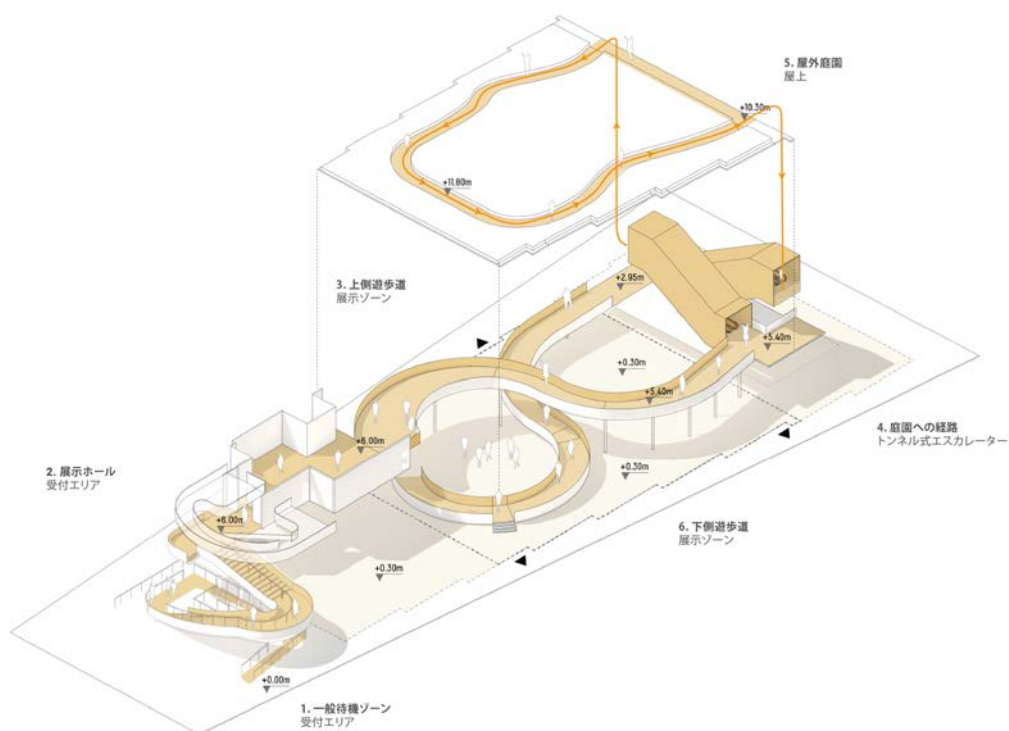


1. 「愛に満ちた散歩道」というコンセプトが宿る常設展示

美術監督であるアーティスト、ジュスティヌ・エマールとのコラボレーションから考案された常設展示は、進路行程の一部としての恋人たちの散歩道であり、3つのムーブメント(「自分への愛」、「他者への愛」、「自然への愛」)の間で終わりのない対話をしています。

展示は建物を横断している歩道橋から始まり、庭園が舞台の一部となっている屋上に続き、建物内を進んで、一階部分で行程が終了します。

常設展示の舞台は次のようなさまざまなプレゼンテーション方式を選んでしています。セット、マッピング、オブジェクト、作品、プロトタイプなど。テクノロジーはなによりもそこに、人間や自然が必要とする手段や答えとして提示されています。





2. あらゆる状態にあるデザイン

展示スペースと一般向けサービスに使うスペース（トリコ セントジェームスとアルテウム
の連合体により運営されているブティック、エリック・カイザーが運営しているブーラン
ジェリー・パティスリーとビストロ）を補足する形で、**さまざまな機能をもつスペース**（
コワーキングラウンジ、会議・実演室、モジュール式のミーティングルーム、応接室）が
ありますが、これらはフランス館に関するB to Bか公開のイベントを企画したいと希望す
るパートナーおよびビジネスの当事者に使用が限定されます。

あらゆる多様性の中に、フランスの創造性がフランスのパビリオンに6ヶ月の間展示され
ますが、1970年の大阪万博のためにデザインしたピエール・ポランのセットのように、
万国博覧会のための限定デザイン作品を発表する伝統を復活させています。

フランス館では、モビリエ・ナショナルとの協働に加えて、ヴィラ・ノアイユと若手デザ
イナーを募集した結果を受けて、**パビリオンのビストロのためにテクトナが特別に制作し
た作品を一揃い設置する予定です。**

フランス館のさまざまなスペースの**クリエイションの監督はアーティストでデザイナーで
あるジョゼ・レヴィに委ねられました。**

3. フランスの切り札の価値を高めるプログラミング

パビリオンのプログラミングは6ヶ月の間のちを刻みます。プログラミングはパビリオンを編集する「糸」、「愛の讃歌」に基づき、また大阪万博 2025のプログラミングの礎となっている持続可能な17の開発目標（SDGs）に基づいています。

フランス館のプログラミングは以下の3本の軸により構成されます。

- **6つの企画展示**は生きたサヴォワフェール、アート作品、または「ライブ」での没入型体験を展示します。
- **プログラミングの中心となる約15のテーマ体系**：持続可能な開発目標に関連した主要な12のテーマを巡って考案されているテーマ体系は、パビリオンを、講演、「トーク」、重要な証人、映写会、上演などで活気づけます。
- **フランス館の特別な日**
 - 落成式：2025年4月13日
 - 男女平等の日：2025年5月2日
 - フランス建国記念日：2025年7月14日
 - フランスの日：2025年9月13日
 - 閉会式：2025年10月13日



パビリオンで没入型の体験を、世界中からアクセス可能

大阪万博 2025には**2,800万人の来場者**が見込まれますが、そのうち少なくとも**300万人はフランス館に来場する見込み**です。これは多いですが、フランスや世界の他の地域に興味をもった多くの方を考慮すれば、決してそう多くはありません。パビリオンはバーチャル形式ですべての人びとに、また中でもこのタイプの体験を特に高く評価する若者に、リモートで参加していただけます。

フランス館は、建築物内でそうであったようにコンテンツにおいても、没入型の体験が再現されることになります。このバーチャル形式の来訪は自宅からも、パートナーに公開されているバーチャルリアリティの設備があるスペースにおいても、簡単にアクセスができます。この訪問形式で、来訪者は、博覧会、テクノロジー、展示されている作品の理解をより深めることが可能になります。

没入型体験についての箱を作る

● パビリオンの「いのち」の 主要な出来事

2023

● 5月26日

フランスが公式参加契約に調印

● 8月7日

パビリオンの建設と舞台空間的構成についての契約に調印

2024

● 1月

フランス館の全容についての発表

● 春:

フランス館の建設工事の開始

● 最終四半期

フランス館の建設工事の終了

2025

● 第1四半期

内装設備

● 4月13日

万国博覧会の開会とフランス館の開館

● 2025年10月13日

万国博覧会の閉会とフランス館の閉館

・フランス館のパートナー

フランス館は、大阪万博 2025において、フランスが投資した経済的推進力に価値を生じさせるという目的をもっています。 目的はエネルギーの支配力、新世代の低炭素再工業化に、および第4世代のような現在の科学的・社会的な挑戦に立ち向かう意志にも、また近未来の「人間と自然」のために生活の質を向上させるという課題にも基礎をおくものです。パビリオンはまた、アール・ドゥ・ヴィーヴルと文化・クリエイティブ産業の世界的リーダーとしての我が国のキャパシティに支えられています。

大阪万博2025は、既にフランス館に参加している企業が、専門的知見とイノベーションで経済的価値の引き上げを示す類い稀なるショーウィンドーです

フランスのサヴォワフェールの卓越性はさまざまな分野で国際的に認められています。例えば、航空機製造、宇宙技術、エネルギー技術、環境対策技術、文化、科学、農業、健康、そしてラグジュアリー産業についてです。高く評価された貴重な人材が、長年にわたり、テクノロジーの進展に適応して、常により新しくなったソリューションを提供する能力があることを証明しています。

フランスは、国土の多様性の中で、あらゆる世代を超えた人材の宝庫なのです。国際的にはあまり知られていない優れた人材にとって、フランスのパビリオンでの6ヶ月は、その活動を通じて知名度を上げる絶好の機会となるでしょう。

パビリオンのパートナーもまた、パビリオンのプログラミングと舞台美術（展示スペース、来場者の経路、約15のテーマ体系など）を、彼らの持つ専門的知見と知識を活かしてより豊かにすることでしょう。

これは、19世紀に賭けられたパートナーの出資金の価値を上げて、将来に自信を持たせ、国際社会に対してもフランス人に対してもフランスのイメージを強化する、千載一遇の機会なのです。

フランス館のパートナー

ゴールドパートナー



ブロンズパートナー



テーマ別パートナー



提携パートナー



機関投資家パートナー



メディアパートナー



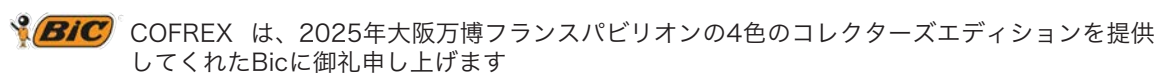
ブティック代理店



パビリオンのビストロとブーランジェリー・パティスリー代理店



後援



COFREX は、2025年大阪万博フランスパビリオンの4色のコレクターズエディションを提供してくれたBicに御礼申し上げます

添付文書

ジャック・メールの経歴

2025年大阪万博フランス館総監督およびCOFREX
社社長



外交官として、ジャック・メールは、パリ（オルセー河岸と首相官邸）とブリュッセルにおいて、ヨーロッパ問題からキャリアを開始しました。フランス国においては、以下のようなさまざまな要職を歴任しました。国土開発環境大臣首席補佐官（1997年～1998年）、雇用連帯省、欧州・国際問題担当代議員（1999年～2002年）、外務省、企業・国際経済局長（2012年～2014年）。危機的状況にある国々、特にサヘル地域と中東諸国の復興と発展のために、大使と特別代表の任を担いました（2017年）。彼は、2023年2月7日に、フランス館総合コミッショナー兼COFREX社長に任命されました。

民間において、ジャック・メールは、AXAグループにおいて2002年から2012年の間に、さまざまな要職に従事しました。アクサグループの国際開発ディレクターとして、それからAXAグループ ハンガリーおよびAXA銀行ハンガリーのマネージングディレクターとしてです（2002～2012年）。また、社会環境評価機関 Vigéo-Eiris のディレクター（2015年）、およびスマートグリッドのフランス関連部門について、Cop 21の実施に向けたミッションディレクター（2016年）も務めました。

政治部門では、ジャック・メールは1995年から2008年の間に、ブルターニュ地方においてさまざまな任務に就きました。ブラベネックの地方議員として、それからプレスト都市共同体の副議長、そして地域評議員としてです。2017年にオー＝ド＝セーヌ県の国民議会議員に選出され、外務委員会の副委員長になり、さらには欧州評議会議員総会のリベラルグループの議長になり、2022年6月まで務めました。

1962年にアンギャン＝レ＝バンに生まれたジャック・メールは、ドーフィンヌ大学での応用経済学の修士号と、国際金融学の高等教育専門研究免状（DESS）を取得し、パリの政治学院を卒業し、国立行政学院では「ジャン・モネ」クラスの卒業生（1990年）でした。

彼はシンクタンク「Confrontations-Europe」の副会長でもあります。

COFREX: 国際社会におけるフランスのビジョン



2018年1月に設立されたCOFREX（フランス博覧会公社）は公営のSAS（単純型株式会社）です。

その設立は、初めて一般市民向け国際イベントへのフランスの参加に関する専門組織の創設を表明したものです。

COFREXの使命は、世界および国際博覧会に、フランスを参加させる準備、企画、実行をすることです。

COFREXの創設は、先行する万国博覧会の経験に基づくことが可能である持続可能なプロジェクトに含まれており、これは最適な方法と経費で将来的にフランスが世界および国際間の博覧会に参加することを組織するためです。COFREXは、フランスのイメージと経済的な魅力のまわりに集う、公共と民間の当事者間パートナーシップの論理の中に含まれています。

COFREXは日本に以下のような子会社を所有しています。フランス共和国パビリオン 大阪万博 2025

www.cofrex.fr

フランスブランド

世界的な影響力の高さを決める競争においては、フランスというブランドについて、一流国としての威光を強めるために、徹底的な仕事をしようとするのが重要でした。フランスのもつ根本的な価値(ヒューマニズム、ユニバーサリズム、インクルージョン、創造性、卓越、寛容など)がほとぼしるのは「大胆さ」を通じてなのです。

「フランスのエスプリ」はそれが疑問になることで、私たちが際立たせています。

このエスプリは絶えず新たな価値を見出すこと、改革するアイデアを刺激するようにと私たちを駆り立て、また物を作り変える、現状を打ち破る、世界にポジティブなインパクトを与える人材と出会わせるのです。

特に国際的なキャンペーンのおかげで、フランスというブランドのユニークなポジショニングは、こうして世界レベルでのフランスの魅力を強め、その次世代ブランドを生じさせましたが（ChooseFrance™、TasteFrance™、ExploreFrance™、PartnerWithFrance™、ExperienceFrance™）、これらはあらゆる分野の活動において海外でフランスの評判を高めています。



パビリオンの設計と建造（フランス）

1. クリエイティブパック

COLDEFY & ASSOCIES ARCHITECTES URBANISTES（コールデフィー&アソシエイト アーキテクト ウルバニスト）、トーマス・コールデフィーとイザベル・ヴァン・オート-建築家



「コールデフィー」は建築と都市計画の国際的なエージェントで、リル、パリ、上海、香港に進出しており、60人の協力者で構成されています。ロンドン、ニューヨーク、パリの有名な国際的なエージェントとコラボしたあとで、トーマス・コールデフィーとイザベル・ヴァン・オートは2006年に「コールデフィー&アソシエイツ・アーキテクト・アーバニスト（CAAU）」エージェントにたどり着き、現在は共同でディレクターを務めています。

同年、二人は香港デザインインスティテュートの国際コンクールで、162チームを抑えて優勝しました。彼らは新しいプラグマティズムを考案し、そこでは社会的・知覚神経的体験、個人のもつ活力と共同体がもつ活力、循環とプログラムが形に影響を及ぼします。このプロジェクトに伴い、エージェントは彼らのアプローチと価値観を体現する繊細な建築に関するマニフェストに署名して、スタジオを立ち上げました。

エージェントは「ルーブル・ランス」のコンクールのファイナリストになりました。2022年に、エージェントは、84,000m³の大建造物で、中に「神々の気まぐれ」とあだ名される半円形の建築空間が収まっている欧州議会の建物の改修プロジェクトを勝ち取りました。5億ユーロ近い予算で建築されたこの建物は「モラルが高くエコロジックで街に開かれているうえ都会と自然の間を繋ぐ建築のモデル」です。このコンクールには全部で132人の建築家が立候補していましたが、特にレンゾ・ピアノ、坂 茂とスノヘッタがいました。

エージェントは2023年のアジア大会のために西安サッカー国際センターを制作しました。構想は競技場界限の発展の新しい方法を提案するもので、コミュニティの未来の需要と競技場の需要のバランスを取りながら、アジア選手権が終わった後でも長い間、1年中24時間発展することができるダイナミックな地区を作ることが目的とします。

精巧さ、不朽性、都会的な洗練と細部へのこだわりがエージェントの契約の要素となっていて、ダイナミズムと創造性により卓越しており、持続的で革新的な実践に基づいて、今日と明日の環境問題に対応していきます。

2022年には、エージェントがフランスの芸術的影響力のためにした仕事、取り組み、貢献に感謝を表して、リマ・アブドゥル=マラク文化大臣が、トーマス・コールデフィーを芸術文化勲章シュヴァリエに叙しました。

www.coldefy.fr

⋮ CRA-CARLO RATTI ASSOCIATI 建築家



CRA-Carlo Ratti Associatiはトリノ、ロンドン、ニューヨークに拠点を置く建築とイノベーションの国際的事務所です。CRAは現在沢山の世界的プロジェクトに参加しており、都市におけるデザイン、自然、デジタルテクノロジー間の集約を加速することを対象とするあらゆる段階の介入を担当しています。

最近のプロジェクトには、シンガポールの高さ280メートルのキャピタスプリング・バイオフィリック超高層ビル、ミラノのイノベーション地区（MIND）のプランニングディレクター、パリのオフィス・コンプレックス「ILOW」、トリノのアニェッリ財団本部の改修工事、コソボのプリシュティナでのビエンナーレ「マニフェスタ14」のアーバン・キュレーターシップがあげられます。CRAは、2008年サラゴサ万博でのデジタル・ウォーター・パビリオン、2015年ミラノ万博での「Future Food District（未来食品地区）」、2020年ドバイ万博のイタリア館といった万国博覧会での設計についての幅広い経験をもっています。CRAは、『タイム誌』の「今年のベスト発明」リストに業績が3回掲載された、唯一のデザイン事務所です。

事務所は、マサチューセッツ工科大学（MIT）センサブル・シティ・ラボ所長で、都市イノベーションの分野では世界で評判の10人の研究者にはいるカルロ・ラッティが率いています。

www.carloratti.com

⋮ ジュスティヌ・エマール - 常設展示の美術監督



アーティストであるジュスティヌ・エマールは、私たちの存在とテクノロジーの間に作られる新しい関係を研究しています。イメージのさまざまな媒体を、写真からビデオやバーチャルリアリティへと組み合わせて、彼女は神経科学、オブジェクト、有機生命体、人工知能の交わる場所に作品をおいています。そのシステムはディープラーニングの実験と人間と機械の間の対話に出発点を置いています。2016年から、彼女は日本の科学研究所と協働しています。彼女は東京で、2017年のアンスティチュ・フランスの「オーレミュール（Hors-les-murs）」レジダンスで受賞しました。彼女の作品は、NRWフォーラム（デュッセルドルフ）、シンガポール国立美術館、モスクワ近代美術館、イタウ文化会館（サンパウロ）、シネマテーク・ケベコワーズ（モントリオール）、アイルランド近代美術館（ダブリン）、森美術館（東京）、MOT東京都現代美術館、バービカン・センター（ロンドン）、ワールド・ミュージアム（リバプール）、ペルノ・リカール財団（パリ）、CNES：フランス国立宇宙研究センター（パリ）、ZKM：アート・アンド・メディア・センター（カールスルーエ）の各美術館で展示されました。彼女は、モスクワ国際現代美術ビエンナーレ（ロシア）、トンヨン・トリエンナーレ（韓国）、カラチ・ビエンナーレ（パキスタン）、成都ビエンナーレ（中国）など、国際的なビエンナーレに参加しています。

2020年に、彼女はパリのジュ・ド・ポーム（Jeu de Paume）と提携した国立造形芸術センター（CNAP）のナショナル・フォト・コミッション「IMAGE 3.0」で受賞しています。2021年と2022年には、ル・フレノワ国立現代アート・スタジオ客員アーティスト教授でした。彼女の作品は国内外のコレクションに収められています。

<https://justineemard.com/>

ジョゼ・レヴィ - フランス館のクリエイティブディレクター



J O S É L É V Y 

アーティストで世界を旅するひと、ジョゼ・レヴィは、特別パートナーシップの一環として、大阪2025のフランス館でクリエイティブディレクターを務めます。彼は、館の常設展示を除いた、公共および専門的スペースの設計を、独自の視点と専門知識でサポートします。

多分野アーティストであるジョゼ・レヴィは、装飾芸術と造形芸術が交わるところで、才能とユーモアを帯びた詩的センスを駆使して活躍しています。彼の作品にはどれも、空想力と厳格さを独自の手法で調和させた表現が用いられています。

パリ市グランプリ、ヴィラ九条山（京都）の勝者であるジョゼ・レヴィは、セーヴル美術館、サンルイクリスタル工場、メゾン・エルメス、アスティエ・ド・ヴィラット、ロッシュボア、ディプティック、モノブリ、さらにはセラックスやルリエーブルといった文化機関や著名な出版社とコラボレーションしています。

彼の作品は、ギメ美術館、狩猟博物館、プティ・パレ、パレ・ド・トーキョー、さらにはペロタンギャラリーなどの主要な文化施設で展示されています。

2023年には、ジョゼ・レヴィは、Mac Valの新しいレストラン「VERT - VERRE」のデザインをしました。

2024年、ヴィラ九条山とベタンクールファンデーションの依頼で、彼はふたつの機関の提携10周年を記念する展覧会の役員を務めます。

さらに彼は、2024年6月にオデオン劇場で上演予定のジャン・ジュネの戯曲『レ パラヴァン』、アルチュール・ノジシエル監督が指揮する次回作の衣装制作も担当しています。

www.joselevy.fr

2. フランス館の建設と舞台美術の提供者



■ RIMOND (リモンド)

リモンドは国際博覧会の分野で、着想と建築に関する国際的な当事者として、リーダーとしての頭角を現しました。リモンドは複合的建築プロジェクトのスペシャリストで、野心的な製作における取組みに特徴があります。リモンドは特に2015年ミラノ万博、2020年ドバイ万博、2023年カタール万博、そして次の2025年大阪万博に貢献しました。リモンドの主要プロジェクトのひとつは、2020年ドバイ万博のアルワスル・プラザのドーム、卓越した構造の実現における力量を明らかにしたプロジェクトです。カタール2023に向けた主要工事へのリモンドの参加は、大規模で複雑なプロジェクトの監督と実施に特別な技量を示すものでした。リモンドはこの幅広い経験を、2025年万博のフランス館のために、イノベーションとフランスの文化と美学の神髄を表す要素を同時に体現するスペースを想像する目的で、活用する準備ができています。

万国博覧会での取組みに加えて、リモンドは世界の著名な建築のスタジオとコラボを組んで、最高級のプロジェクトを実施することの承認を得ています。リモンドは高級住宅プロジェクトやホテルのプロジェクトを実施しますが、それぞれ最先端のデザインとオーダーメイドで手作りのサヴォワフェールに特徴づけられています。フランス市場では、リモンドはコートダジュールでハイクラス住宅のプロジェクトを展開しました。

GSM PROJECT (GSMプロジェクト) - 没入型体験



GSMプロジェクトは、「忘れられない体験」を生み出す使命のために打ち込みました。スタジオは没入できるデザインと一般来場者の参加に的を絞ったアプローチを採用していて、これは歴史から文化、自然からテクノロジーにいたる主題について、今日の来場者の知覚を定義し直すためです。

1958年にモントリオールで設立されて、GSMプロジェクトは多分野にかかわるデザインの実践に基礎をおいています。舞台美術、美術館管理技術、グラフィックアート、メディアが4つの統合・構造化された専門技術であり、これらが空間の中でコンセプトを「いのちをもつ本物の物語」に変える経験の想像を可能にさせるのです。スタジオはさまざまな分野の展示と体験の設計と実現を専門にしており、博物館から科学センター、展望タワーから観光地、そして世界の主要イベントまで取り扱います。

スタジオの国際的な知名度を形成した成果の中から、特別な展覧会として名をあげるなら、モントリオールの考古学と歴史の街、ポワンタカリエール、シンガポールの国立博物館、ドバイのブルジュ・ハリファにある「アト・ザ・トップ (At The Top)」展望台の体験、10年以上にわたり国際ツアーをしているインタラクティブな展示会「スターウォーズMCイデンティティ (Star WarsMC Identités)」ですが、さらに万国博覧会での卓越したパビリオンとして、モントリオールの1967年万博、バンクーバーの1986年万博、リスボンの1998年万博、上海の2010年万博のものがあります。

北米、アジア、ヨーロッパでのプロジェクトのために、GSMプロジェクトのチームはモントリオール、シンガポール、パリに拠点をおいています。20年以上の間、エージェントはフランスでのプロジェクトを展開しており、最近の作品としては、トロアの「シテ・デュ・ヴィトレイユ」の常設ツアー（2022年）とアンジェの「コアントロー蒸留所」のツアー（2020年）があります。GSMプロジェクトは2025年大阪万博に参加し、フランス館の常設展示を監督しますが、この展示は造形芸術家ジュスティエヌ・エマールに考案され、国際博覧会の総合建設請負業者であるエクスポモビリア (Expo-mobilia) に制作され、照明デザインの「8' 18' 」と都市景観企業のトパジェ (Topager) とコラボレーションしています。

2022年4月に、GSMは通信分野での独立系企業集合体であるユマニス (Humanise) に再び加盟しました。この集合体は「第4世代」というガバナンスの変化を実行し、GSMに以下のような新世代のデザイナーを輩出する機会となりました。エリック・ドゥメイ (Eric Demay)、フランソワ・ベルーメール (Francois Bellehumeur)、エリカ・キースナー (Erika Kiessner)、そしてナタナエル・メイヤー (Nathanael Meyer) はユマニス (Humanise) 会長、セバスチャン・フォーレとともに、新しい仲間となりエージェントの発展を確かなものにしました。

<https://gsmproject.com/fr/>

Ⅲ エクスポモビリア (EXPOMOBILIA)

1973年からエクスポモビリアは、パーソナル化して一時的な建築物の分野で、最先端技術において、抜さんでていました。会社はグローバル総合建設会社として、見本市スタンド、パビリオン、イベント構造物、体験センター、文化展示会に関して頭角を現してました。エクスポモビリアは2007年から、MCH Group AGの独立系子会社であり、世界中に100人以上の従業員がいます。会社の本拠地はスイスのチューリッヒに置かれています。受付事務所と制作ラインはヨーロッパ、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アジアの15以上の都市に開設されています。

2022年に新しいアート見本市の第1回目として開催された「パリ・アートバーゼル」では、エクスポモビリアは当初から設計とプランニングに加わり、156ギャラリーの出展者の管理を担当しました。ギャラリーの展示会場以外にも、チームはエントランス、カフェ、コレクターのラウンジのプランニング・制作をし、すべてをたった6週間で完成させました。

www.expomobilia.com/fr/



www.cofrex.fr

www.franceosaka2025.fr

報道関係者お問合せ先

ナタリー・メルシェ、
・プログラミング担当ディレクター
nathalie.mercier@cofrex.fr

メリッサ・レイモン、
コミュニケーション・プログラミング担当者
melissa.reymond@cofrex.fr

Hill & Knowlton
cofrex@hillandknowlton.com

写真提供:

1頁, 12頁, 13頁, 14頁, 15頁, 16頁, 17頁, 18頁, 19頁, 33頁: コールデフィ (Coldefy) 、Carlo Ratti Associati とリモンドジャパン株式会社.

3 頁: フランス共和国大統領

5頁, 24頁: Olivier Roller.

13頁: Justine Emard.

26頁: Vincent Desailly.

27頁: Sara Magni.

27頁: Quentin Chevrier.

28頁: Audoin Desforges.

30頁: GSM Project.

33頁: コールデフィ (Coldefy) 、Carlo Ratti Associati とリモンドジャパン株式会社.

